

特別支援学級の授業づくりを支える教育センターにおける支援の在り方
(2年次)

島根県教育センター
教育相談スタッフ 特別支援教育セクション 共同研究

目 次

【要 旨】	1
1 研究の背景	1
2 研究の目的	2
3 研究の方法	2
4 研究の内容	2
(1) 今年度の取組の方向性	2
(2) モニターによる聞き取り調査について	4
(3) 資料について	4
① Go!Go!授業づくり!シート	4
② ほっぷすてっぷ～各教科の段階表～	19
5 成果と課題	22
(1) 成果	22
(2) 課題	23
6 おわりに	24
【引用文献】【参考文献】	24

特別支援学級の授業づくりを支える教育センターにおける支援の在り方（2年次）

島根県教育センター 教育相談スタッフ 特別支援教育セクション 共同研究

【 要 旨 】

本研究は、特別支援学級担任が授業づくりについて、在籍する児童生徒に合わせて情報を活用し、主体的に考えながら授業を充実させていくことを目的とし、教育センターとしてどのようなはたらきかけができるかを探っていった。研究期間を2年間とし、1年次は主にアンケート調査や関係機関からの情報を基に、特別支援学級の現状の把握と分析、授業づくりに関する課題への対応策の検討、資料の作成に取り組んだ。

2年次は、継続した資料の作成を行うにあたり「児童生徒の実態に合った授業づくり」に向けて、どのような授業づくりシートを作るのかを明確にするために、授業づくりの要点について話し合い整理した。併せて「各教科の段階表」の内容を、より充実させるための方向性についても考えた。それらを基に資料の作成を行い、モニターによる資料の有効性の検証・改善をして、資料の完成をめざした。本研究を通して、特別支援学級担任が日々の授業づくりの中で活用しながら授業づくりの要点について学ぶことのできる資料の有効性と、それらを各関係機関との連携の中で、様々な場において活用していくことの必要性が分かった。

【キーワード：特別支援学級 授業づくりの要点 授業づくりシート 各教科の段階表】

1 研究の背景

島根県教育センター（以下、「当センター」）では、特別支援学級担任（以下、「特学担任」）の職務研修の受講対象を1年目、3年目、5～7年目とし、研修内容に系統性をもたせながら、継続した研修を行えるようにしている。また、その研修の中で受講者のニーズに対応できる内容を設定し、大切な情報を伝えることと合わせて、当センターのホームページの資料を充実させ、必要な情報をいつでもどこでも誰でも得ることができるように環境を整えている。

このように、授業づくりについての情報提供はこれまでも行っていたが、特別支援学級に在籍する児童生徒の実態は様々であり、提供した情報がどの児童生徒にもそのまま使えるわけではない。このことから、特学担任の授業づくりを支えていくためには、担任する学級の児童生徒の実態に合わせて情報を活用しながら「自ら考えて解決していく」力をつけていくような支援が必要である。

そこで、昨年度から本主題を設定し2年間の研究に取り組むこととした。1年次は特学担任の授業づくりの現状と課題について、研修のアンケートや各教育事務所指導主事の聞き取り等から把握した。その上で、研究でめざすことを「特学担任が自ら情報を活用し、児童生徒の実態に合った授業づくりを行うことができる」と設定した。このめざす姿をもとに特学担任の支援の方向性を考え、授業づくりを支援する資料づくりに取り組んだ。

2年次である今年度は、各教科、自立活動、各教科等を合わせた指導それぞれの「児童生徒の実態に合った授業づくり」において大切にしたい点を検討して要点をまとめ、資料を作成し

た。そして、協力校を設定し、実際に資料をモニターに活用してもらう中で出てきた課題について検討を重ねながら、資料の完成をめざした。

現場のニーズに沿った資料を作成することで、児童生徒の実態に応じた授業づくりを支えたい。

2 研究の目的

特別支援学級の授業づくりの視点を整理し、特別支援学級担任を支えるための具体的な方策を探っていく。

3 研究の方法（2年次）

- 今年度の取組の方向性についての検討
- 資料の内容の検討と改善
 - ・資料（「Go!Go!授業づくり!シート」「ほっぷすてっぷ～各教科の段階表～」）の作成
 - ・モニターによる資料の検証と改善
- 資料の完成
- まとめ

4 研究の内容

（1）今年度の取組の方向性

今年度も、「特学担任が自ら情報を活用し、児童生徒の実態に合った授業づくりを行うことができる」姿をめざして研究を行った。どのような資料を作成するか考える上で、まず授業づくりの要点について整理する必要があると考えた。そこで、各教科、自立活動、各教科等を合わせた指導それぞれにおいて「児童生徒の実態に合った授業づくり」に向けて大事にしたいことは何か、その要点について話し合い、整理した。

以下、①～③において、セクションで整理したそれぞれの教科・領域の授業づくりの要点について述べる。

① 各教科における「児童生徒の実態に合った授業づくり」で大事にしたい要点

各教科は、どの児童生徒でも学習指導要領で学年段階ごとに定められた目標の達成をめざし、教師が系統的に指導していくものであり、一般的には教科書を使いながら授業が行われている。知的障がいのない児童生徒の在籍する特別支援学級でもそれは同様であるが、経験の浅い特学担任からは「うまく授業を進めることができない」「子どもが意欲的に学習に取り組むためにどうしたらよいのか」という声をよく聞く。基本的に授業づくりにおいてはどんな児童生徒に対しても、教科書を活用しながらも目の前の児童生徒の実態に合わせて進め方や支援方法を工夫していくことが求められる。特別支援学級には様々な障がいのある児童生徒が在籍しているため、児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりを行うには、より一層一人一人の実態把握を丁寧に行いそれに基づく手立てを取り入れた指導計画の立案を意識することが大切であると考えます。

知的障がいのある児童生徒の各教科の授業づくりにおいて必要なのは、適切な目標や指

導内容の設定ができることであるが、特学担任からはその難しさについて悩む声もよく聞かれる。知的障がいのある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の各段階の目標や内容について理解し、それを児童生徒の実態や具体的な姿と結びつけて身に付けるべき資質・能力とは何か考えることが、授業者に求められる力である。

② 自立活動における「児童生徒の実態に合った授業づくり」で大事にしたい要点

自立活動において重要なのは、児童生徒の丁寧な実態把握とそれに基づく適切な指導目標の設定である。年度始めに担任は一人一人の児童生徒の実態把握から長期目標の設定を行い、その目標の達成のためにどのような指導内容を行うのか考え、個別の指導計画の作成を行う。自立活動の授業はこの個別の指導計画に基づき行われるものであること、単元や題材ごとの目標は長期目標の達成につながるものであることを意識しながら授業づくりを行うことが必要である。

また、自立活動は障がいによる学習上または生活上の困難さを改善・克服することが目的であるが、このことから授業者は児童生徒の弱点や課題ばかりに注目してしまうこともある。ただ、学習指導要領には、自立活動は児童生徒が「主体的に」取り組むものである、とも示されている。実際に児童生徒の困難さは簡単に改善・克服できるものではない。児童生徒自身が時間をかけてそれを受け止め、肯定的な自己理解につなげていけるようにすることも大事である。児童生徒が主体的に取り組む自立活動の授業をめざすには、児童生徒一人一人がもっているよさに注目しそれを活かす、また、児童生徒が興味・関心をもっていることを取り入れるなどの手立てや工夫をしながら活動内容や計画を考えることが、授業者として欠かせない視点であると考えられる。

③ 各教科等を合わせた指導における「児童生徒の実態に合った授業づくり」で大事にしたい要点

各教科等を合わせた指導は、生活的、実際的な活動を通して、自立や社会参加の力を育てることを意識しながら各教科の目標の達成をめざす知的障がいのある児童生徒に行う指導形態である。合わせることができるのは知的障がいのある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科のみであり、活動内容は定められておらず特学担任に任せられている。しかし、「どんな内容を行ったらよいのか」という声や「昨年と同じ内容をそのまま行っている」という声がある。児童生徒が主体的に学ぶ姿をめざすためには、児童生徒にとって魅力的だと感じられるような、そして必然性を感じながら取り組むことができるような活動内容でなければならない。そのためには、授業づくりにおいて、児童生徒の興味・関心や実際の生活に沿った活動内容を考えるような視点をもつことが大切である。

また、各教科等を合わせた指導で達成するのは各教科の目標であることから、知的障がいのある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科について理解しておく必要がある。そのうえで、合わせる教科を明確にしながら、児童生徒の実態に基づいて適切に目標を定めることも、授業づくりにおいて必要な力であると考えられる。

これらのことから、各教科、自立活動、各教科等を合わせた指導それぞれで「児童生徒の実態に合った授業づくり」に向けて大事にしたい要点を意識しながら授業づくりを行うことができるよう、3種類の授業づくりシートを作成することとした。

また、①③で述べたように、知的障がいのある児童生徒の授業づくりにおいては、知的障がいのある児童生徒の在籍する特別支援学校の各教科について理解することが欠かせないことから、その手助けとなるような「各教科の段階表」の充実をめざすこととした。

(2) モニターによる聞き取り調査について

資料を作成するにあたって、協力校を設定し、モニターによる聞き取り調査と資料を使った授業づくりに協力していただいた。

協力校のモニターに実際に資料を使っていた理由は、資料が特学担任の授業づくりに実際に役立つか検証するために、モニターの率直な意見を知りたかったからである。そして、実際にモニターに活用していただいた中で出てきた課題について検討を重ねながら、資料の充実を図っていきたいと考えた。

① 調査目的

当センターが作成した「授業づくりシート」「各教科の段階表」について、資料を用いた授業づくりや感想、活用にあたっての課題等について聞き取りをし、資料の改善の参考とする。

② 調査対象

令和4年度小・中学校特別支援学級、通級指導教室新任担当教員研修受講者や、各教育事務所の指導主事による聞き取りなどからモニター8名を決定した。モニターを選ぶ時には、校種や障がい種（知的障がい学級、自閉症・情緒障がい学級）、在籍児童生徒数に偏りがないように配慮した。小学校・中学校それぞれ一人在籍学級担任が4名、複数在籍学級担任が4名である。

また、特別支援学級経験が1年目から3年目の教師や、特学担任の経験が豊富な教師をバランス良く選ぶことで、多様な意見や感想を聞くことができるように配慮した。

③ 実施内容

(第1回) 資料の概要についての説明をし、学級や児童生徒の実態についての聞き取りを行った。

(第2回) 資料の活用状況、授業づくりをする上で有効だったか等について聞き取りを行った。

その他、協力校のモニター以外に、特別支援教育課、各教育事務所の指導主事から資料に関する聞き取りを行った。

(3) 資料について

今年度作成した資料について、以下に詳しく述べる。

① Go! Go! 授業づくり! シート

特別支援学級の授業づくりを行うにあたって、考えるべき内容を思考の流れに沿って示したシートである。「特学担任が自ら情報を活用し、児童生徒の実態に合った授業づくりを行うことができる」姿をめざし、各教科、自立活動、各教科等を合わせた指導の3種類の授業づくりシートを作成することとした。昨年度考えた「作成する上で大切にしたい視点」を今年度あらためて検討し直し、いずれのシートも以下の3つの視点を大切に

し、作成した。

・「児童生徒の実態に合った授業づくり」に向けて大事にしたい要点を伝えられるようにセクションで整理した、各教科、自立活動、各教科等を合わせた指導それぞれにおいて大事にしたい要点を、作成しながら自然に意識することができるように工夫した。

・情報を活用しながら考えることができるように

シートを柱としながら、特学担任が児童生徒の実態に照らし合わせながら様々な情報の中から必要な内容を選択し、活用することができるように工夫した。

・授業改善につながるように

作成して終わりではなく、手元に置き日々の記録や改善点を書き込み、次の授業へと活かしていくことができるように工夫した。

いずれのシートも「様式」に併せて「記入のポイント」「授業例」を作成することで、シートの記入の仕方がイメージできるようにするとともに、授業づくりの要点が伝わるようにした。

ア 各教科用

○資料の概要

様式、記入のポイント

特別支援学級には様々な障がいのある児童生徒が在籍している。そのため、児童生徒が主体的に学ぶ各教科の授業づくりに向けて、一人一人の実態把握を丁寧に行い、それに基づく手立てを取り入れた指導計画を立てることが一つの要点である。

そこで、シートには児童生徒の実態として「これまでの教科・領域に関する姿」「強み」「支援が必要なところ」について記入する欄を設け、それに基づいてねらいや手立て、活動内容等を考えることができるような構成とした。記入のポイントには、そのつながりが分かりやすいように表した。

また、特別支援学級では、障がいの程度等を考慮の上、必要に応じて各教科を知的障がいのある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替える場合がある。よって、もう一つの要点として知的障がいのある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の各段階の目標や内容と児童生徒の実態や具体的な姿と結びつけて身に付けるべき資質・能力を考える、ということが挙げられる。そのため、特別支援学校学習指導要領 知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校における規定による教育課程（以下、「特支 CS 知的」）の場合、記入のポイントに特別支援学校学習指導要領や「各教科の段階表」を参考資料として挙げ、情報を活用しながら必ず学習指導要領の目標や内容と照らし合わせて考えることができるようにするとともに、見通しをもって作成することができるようにした。

次に、授業改善につながるための工夫についてである。単元の終わりの記録については、評価だけでなく「児童生徒の学んでいる姿で気づいたこと」と「自分の手立てについて気づいたこと」の視点を示した。このことで、子どもの姿と手立てのつながりに注目した授業の振り返りにつなげたいと考えた。

授業例

昨年度作成した特支CS知的(一人在籍)の授業例に、一人在籍の学級の授業づくりの工夫、知的障がいのある児童生徒の各教科の授業を考えるうえでのポイント(図1、図2)を加

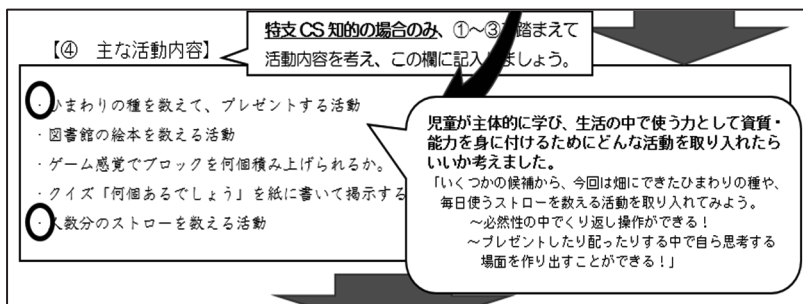


図1 特支CS知的(算数) 授業例
「主な活動内容」

え、授業づくりの要点を具体的に伝えられるようにした。また、複数在籍の学級の難しさを訴える声も多いことから、今年度は小学校学習指導要領による教育課程(以下、「小CS」)(複数在籍)の授業例(図3)も新たに作成した。学年や学習内容が様々な3名学級の例だが、活動の中に集団での学び合いの場面を設定し、それぞれが違う内容を学びながらも学級としての一体感を生む工夫ができることを表す資料とした。

(火)			を数えようとしている。 (学) くふうしてしまわりのたねをかぞえよう	方はある？			「大きな数を数えることは大変」という体感 →これまでに学習した「10のまとまりをつくる」よさに気づけるようにしました。
9/8 (水)		1	・2位数の構成について理解する。(知・技) かずのひみつを見つけよう	・位取り板を使って、数える。書く。 「種を実際に置いて確かめる」という操作ができるよう、位取り板に工夫をしました。 プレゼント (校長先生、教頭先生、保健室) → 昼休みな変更	しまわりの種 位取り板 	「十のへや」に10のまとまりを入れるOK. 残り「一のへや」に入れるOK 10のまとまりを作った箱、次回準備。	
			・2位数を正しく数えたり、数えた数を数字で表したりする。(知・技) しゅぎょう!かぞえめ いん	・位取り板を使って、数える。 ・量から数字 ・数字から量 ・〇〇に説明しよう 位取り板 「十のへや」「一のへや」 「一のへや」が空位0	ブロック 位取り板	「40」をよんぜろ。 一人一人在籍なので、数え方について、絵本のキャラクターに説明をする活動を設け、児童の思考が深まるようにしました。	
9/14 (火)		1	・10のまとまりを意識しながら、ストローの数の数え方、表し方を考える。(思判表)	・教頭先生から頼まれる。「ストローを学級ごとに配ります。人数分のストローを束にしてまとめてください。」 ・学級にストローを配る	ストロー 位取り板 必要時 出す	先生から頼まれてやる気マンマン。 位取り板を出した。 ヒントにして数えることができました。	

10の量感を感覚的にとらえることができるように、数える対象を具体物(しまわりの種)から半具体物(数図ブロック)に移行させました。

一人一人在籍なので、様々な人との関わりを単元計画の中で設け、児童の学習意欲を高めたり、コミュニケーションの幅を拡げたりします。

図2 特支CS知的(算数) 授業例
「単元計画」

子どもたちの姿を具体的に思い浮かべながら授業を考えましょう。

【◎ 本時】
単元(題材)名(いろいろな形について知ろう)

集団での学び合いの場面を設定すると、それぞれの学年の内容を学習しながらも、同学年共通の話し合い場面が多くなり、学級としての一体感が生まれやすいといったよさがあります。

主な学習活動 学習の中で得られること ★手立て

記録 次回への改善点

導入

今日のねらい
お店さんの飾りをきれいに付けるために、きれいな形がかけようになるう！
どんな形がいいか考えよう！

お店さんの飾りをきれいに付けるために、きれいな形がかけようになるう！
どんな形がいいか考えよう！

どんな三角形や四角があるか
見つけよう

2本の直線の交わり方を調べてか
いてみよう

平行四辺形の面積は
どうやったらわかるかな？

同単元異内容で学習をすることも
あります。

お互いの学習に影響を
受けながら自らの学び
を拓げ、深めていくこ
とができます。

同じ角がある四角でも
名前が違ったりは？
どうしてだったかなあ...

展開

平面図形に触れよう。
★始めは積み木を使い、平面
図形に移行する。

いろいろな図形に触れ、図形に
ついての性質をする。
形、直線、辺、頂点 など

いろいろな図形に触れ、図形に
ついての性質をする。
形、直線、辺、頂点、垂直、
平行 など

辺や頂点の数に着目してパズル
のピースを仲間分けする。

4本の線が交わってできる四角
形に着目し、2本の直線の交わ
り方を調べる。

パズルのピースと同じ形が
あるよ。角もおんなじ形だ！

三角形や四角で似ていても
角が丸いのとそうじゃ
ないのでは違うよ

教師が生にどこについているのかを
示しています。

図3 小CS(算数・複数在籍) 授業例

○モニターの声から
モニターからの意見は以下のとおりである。

表1 モニターからの意見 (Go!Go!授業づくり!シート 各教科用)

質問内容	意見 (○評価された点、▲課題)
授業に対する考えの整理や明確化について	○それはもう！そう思った。 ○今まであまり考えずにやっていたんだな、と思った。意識して授業をすることができた。(知的障がい特別支援学級)
記録欄について	○記録欄があるのはすごくいい。指導案と違うのはこれ。指導案は計画して終わりだから。メモもすぐに書いて良い。 ○手書きで丸をしているところは、今まで焦点を当ててなかったなあという気づきがあった。 ○紙一面で授業を見渡せるのはいい。記録を書くときに確認することができた。
児童生徒の「強み」「支援が必要なところ」を意識して手立てやねらいを考えることについて	○考えるときに意識することができた。 ▲児童の実態は日々意識していることなので… (特にこれを書いたから、というわけでもない)
使いにくかった点について	▲下学年対応なので“小中CS”のシートを使った。本当は手書きがよかったが欄が狭くなるのでやめた。縦になって何枚にもまたがると見にくい。パッと見てわかりやすいものがよい。 ▲記録のところが“次回への改善点”にしぼらない方が書きやすい。評価に関係ない出来事も書きたい。 ▲“児童の学んでいる姿で気づいたこと”と“評価”は何を書くのか。わかりにくかった。 ▲授業例が各教科ごとにあるとよい。 ▲シートがたくさんあると、経験の浅い教員にはどこが必要なのかわかりにくいかもしれない。
授業例について	○小CSだったため、特支CS知的的の記入例は使っていないが、読んでみた。知的の算数ってこんなふうにするんだ、と参考になった。生活に役立つようなことを取り入れる、ということは参考にして授業に取り入れたりしている。

上記の工夫を取り入れ、最初に作成してモニターに渡した資料は以下のとおりである。

- ・特支CS 知的
様式、記入のポイント、
記入例 (一人在籍)
- ・小中CS (小学校・中学校学習指導要領による教育課程)
様式、記入のポイント、
記入例 (複数在籍)

【④ 本時編】		単元(題材)名(新しい計算を考えよう(かけ算)) 全(12)時間	
主な学習活動	学習の中で得たこと	★手立て	記録 次回への改善点
○問題場面を把握し、かけ算が使えるかどうか判断する。 ・上の船は1つの船に3人ずつ乗っている。 ・下の船は1つの船に6人とか4人とかばらばら ○電子黒板に絵を映して、意欲を高める。 ○めあてを確認する。 [かけ算の式を作り、九九を使って計算しよう。]			・全部、3人/と口にしてた。 ・一橋に10分の人数を教えるほど、 かけ算が使える場面を確認できた。
○自転車(2の段)、ロケット(3の段)の子組の人数を計算する。 ・「〇人ずつが〇つある」と言いながら(ワークシート)を入力する ・電子黒板を見ながら、答えながら ★「〇人ずつが〇つある」というようなキーワードを書いたワークシートを用意する。 ★既習の九九を(5、2、3の段)を使って計算できるように(九九表)を用意する。			・ワークシートの穴理めに意欲的に 取り組んでた。先生の合同作業前 に入っていた。まあバタバタとあった。 ・キーワードの言葉は効果的であった。 ・九九の九九表を用いて、ラミネート物 にしたので、気に入った様子であった。 ・先生に〇人ずつと〇人組とかが 問題を作ると、いも興味を示した。
○お目といちごを操作して問題に取り組み。 ・一つのお目といちごを〇こすを入れる。 ・そのお目を〇こすを入れる。 ・〇こすつが〇こすだから、〇×〇=△ ★実際に具体物を用いて、操作することで問題場面を正確に把握できる ようにする。			

図4 モニターの記入したシート(小CS)

GoGo! 授業づくり!シート<単元(題材)計画>記入のポイント 特支CS知的教科の場合			
【教科名】	【学習内容】		
家庭科	生活に役立つ袋をつくらう (ミシン操作)		
【領域】			
【① 児童生徒の実態】			
	A	B	C
これまでの教科・領域に関する要	几帳面でいいねい、時間がかかる。 年中カ〇技術〇	・小学校のときは先生に手伝ってもらってミシンをほとんど使っていない。 ・つくることは好き ・年中カ〇・技術面〇	・手元は器用ではないが、意欲的。 ・速いが難△ 年中カ〇
強み	・いいい作業できる ・少しむずかしい作業にも挑戦して自信をもたせてきた。	・つくること好き ・年中すれば上手くなる ・作業内容を分けて、年中カ〇継続させる	・意欲的 ・基本をしっかり定着させて自信をもたせる
支援が必要なところ			・3つの親子
【② 個々の単元(題材)のねらいと手立て】			
	A	B	C
ねらい	・ミシン操作技術を身につける ・工夫して(音字で使)集中、家族のために	ミシン操作	ミシン操作 ・たのしみながら自分のためにいいいにしてやる
手立て	音楽で使うものを、誰のための、何を入れるか入れるので、実物を、目的を明確に、作業を、使って意欲的に分けて取りかせる ・相談・報告は必ず		・速くなくてよい、意欲させる スピードをおおそくさせる

図5 モニターの記入したシート(特支CS知的)

○考察

モニターから得たシートの評価から、シートの有効性と課題を以下のようにとらえた。

シートの有効性

・シートは授業づくりの考えを整理するのに役立った。特に知的障がい特別支援学級の担任の声から、その“考え”にはシートを作成する上で大事にした「知的障がいのある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標と内容と児童生徒の実態や具体的な姿を結びつけて授業をつくる」という要点も含まれていたと思われる。記入のポイントに学習指導要領や段階表へのつながりを示すことは、普段「あまり考えずに」やっていたことの意識付けにもつながったのではないか。

・図5のモニターの記入したシートを見ると、“①児童生徒の実態”を踏まえて手立てを考えている様子が分かる。このような記入の様子やモニターの声から、シートの記入は児童生徒の「強み」「支援が必要なところ」を意識した授業づくりに役立つととらえることができる。ただ、「児童の実態は日々意識しているので(特にこれを書いたから、というわけでもない)」と話したモニターもいた。ただ、そのモニターと実際に記入されたシートを一緒に振り返ってみると「ああ、自分は興味のあることを手立てに取り入れているなあ」という気づきもあった。無意識に行っていた児童の実態に合わせた手立てをあらためて確認できたことととらえられる。このことが、「ではもっとこうしてみよう」という今後の授業改善につながるとよい。

・記録欄は、児童生徒の姿や自分自身の指導の姿への気づきにつながる事が分かった。「毎時間書くことは難しい」と感じたモニターもいたが、それにこだわらず、特に気づいたことがあった時だけの記入でもよいと考える。シートの使い方として、それが伝わるような情報提供の仕方ができるとよい。

・授業例は、特に特別支援学級の経験の浅い担任にとっては有効である。モニターの声から「知的の算数ってこんなふうにするんだ、と参考になった。」とあった。今回、特支 CS 知的の授業例は単元計画の例として示したが、単元の大まかな流れにともなって表したことで、より授業づくりの流れが伝わりやすかったのではないか。

課題と改善点

シートがたくさんあると分かりにくい

→ 基本のシートは1種類にし、複数在籍用と一人在籍用を作成

シートを「小中 CS」「特支 CS 知的」と分けていたが、たくさんシートがあることで「分かりにくい」との声もあった。モニターの中には、一つのシートを何枚もコピーして様々な授業で使っている様子もあった。小中 CS と特支 CS 知的は、目標と内容は異なるが、同じ教科として授業づくりの基本は変わらない。そのため、シートを分けず、基本のシートをどちらでも使うことができるよう変更し、そこに特支 CS 知的の場合の記入のポイントを付け加えることとした。

また、今回複数在籍と一人在籍では記入の様子が違うことも分かった。そのため、同じシートで複数在籍用と一人在籍用(枠の仕切りのないもの)を用意することで、それぞれのニーズに対応できやすいようにした。

何を書いてよいか分かりにくい表記 → 使う人がイメージしやすい表し方へ

特に記録や評価の部分で、授業改善につなげられるようにという意図をもって設定した項目であっても、どのように表記してよいか分かりにくかったり、書きたい内容が表せないと感じさせたりする箇所がいくつかあった。そのため、取り組みやすいように使う人がイメージしやすい表し方へと変更した。(図6)

児童生徒の学んでいる姿で気付いたこと	評価
A	
B	
C	

学習の様子
B
C

図6 「評価」の項目の変更点

より幅広い視点から手立てを考えられるように → 参考となる情報を示す

児童生徒の「強み」「支援の必要なところ」を意識した授業づくりを行うにあたっては、幅広い視点から児童生徒の実態の背景をとらえることが大事である。また、様々な支援例などの情報を参考にすることで、より一人一人に合った手立てにつながると考える。そのため「障がいのある児童生徒への配慮についての事項」「子どもをみつめる」(当セクション作成資料)等の資料の活用について、記入のポイントに示した。

イ 自立活動用

○資料の概要

様式、記入のポイント

本シートは、自立活動シート(当セクション作成資料)の「4具体的な指導内容の設定」後に具体的にどのような自立活動の授業を行うか、授業づくりを考える段

階で使用するものである。単元の指導目標と毎時間ごとの活動内容と手立て、児童生徒の活動の記録等が記入できるものである。

自立活動の授業づくりの二つの要点を踏まえ、3点の工夫をした。

1点目は、児童生徒一人一人の指導目標（長期目標）と単元の指導目標、単元の指導目標と活動内容、手立てを関連させることができるように、関係づける順番に記入枠を作った。

また、具体的に単元を考える過程では、児童生徒一人一人の単元の指導目標と活動内容、手立てを一括して見ることができ、授業時間ごとに記入ができるようにした。

2点目は、児童生徒一人一人の「学習や生活の中で見られる長所やよさ、興味・関心」を意識しながら、単元の指導目標や活動内容を考えることができるように、長所やよさ、興味・関心を記入する欄を作成した。自立活動シートで記入されているが、具体的な授業づくりの段階で再度、意識ができるようにしたい。

Go!Go!授業づくりシート		自立活動用 様式（複数で指導する場合）		在籍する人数に応じて、記入枠を変更してください。	
児童生徒名					
指導目標 (長期目標)					
指導内容					
学習や生活の中で見られる長所やよさ 興味・関心					

↓

児童生徒名					
単元の指導目標					
単元名					
主な活動内容					

★自立活動の具体的な指導内容を考える際の配慮事項です。指導内容を考える際に次の6点（幼利便は7点）を考慮しましょう。

ア 主体的に取り組む イ 改善・英訳の機会を確保 ウ 発達の違いによる異質を認め伸ばす
 エ 自ら興味と関わり合う（発達段階のみ） オ 自ら興味を覚える カ 自己選択・自己決定を促す
 キ 自立活動を学ぶことの意義について考えさせる

自立活動の配慮事項についての詳しい説明は、『特別支援学校教育実践・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小・中・高）』の111～118ページに掲載されています。詳しくはそちらをご覧ください。



Go!Go!授業づくりシート		自立活動用 様式（複数で指導する場合）			
児童生徒名					
単元の指導目標					
手立て（単元を通して）					
日時	活動内容	手立て			記録欄
		手立て			
		記録			
		手立て			
		記録			
		手立て			
		記録			

図7 Go!Go!授業づくりシート 自立活動用

児童生徒の評価	児童生徒名	評 価			
	指導に付する評価	評定の観点	①活動内容 ②参加意欲	③活動意欲	④活動の進め方 ⑤指導目標の達成度

図7 Go! Go! 授業づくり! シート 自立活動用

3点目は、自立活動の指導に当たっての配慮事項を記載した。特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（以下、「解説自立活動編」）には、具体的な指導内容を設定する際の配慮事項が6点（幼稚部は7点）示されている。この配慮事項を踏まえて具体的な指導内容を設定することで、授業づくりの要点である「児童生徒が主体的に活動に取り組むこと」ができると考える。単元の指導目標と活動内容を考える過程に配慮事項を掲載することで、意識して単元の主な活動を考えることができるようにした。（図8）

★自立活動の具体的な指導内容を考える際の配慮事項です。指導内容を考える際に次の6点（幼稚部は7点）を意識しましょう。

ア 主体的に取り組む イ 改善・克服の意欲を喚起 ウ 発達の違いを認める側面を要に伸ばす
 エ 自ら環境と関わり合う（幼稚部のみ） オ 自ら環境を整える カ 自己選択・自己決定を促す
 キ 自立活動を学ぶことの意義について考えさせる

自立活動の配慮事項についての詳しい説明は、『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』の111～118ページに掲載されています。詳しくはそちらをご覧ください。




図8 配慮事項

また、授業改善をしながら授業づくりができるように、単元終了後に児童生徒の評価、指導に対する評価が行えるように工夫した。解説自立活動編には『実際の指導が個々の幼児児童生徒の指導目標（ねらい）に照らしてどのように行われ、幼児児童生徒がその指導目標（ねらい）の実現に向けてどのように変容しているかを明らかにするもの』と記載がある。児童生徒が「指導目標に対して達成できたのか、できなかったのか」だけでなく、指導目標や活動に対して「どのような態度で、どのような思いや考えをもって、変容していったのか」ということも評価できるように、様式には評価の欄を作成し、記入のポイントには評価の視点を明記するようにした。


児童生徒の評価	児童生徒名	評 価
	A	<p>★児童生徒の評価には、「単元の指導目標ができたか。」だけでなく、「児童がどのような点でつまずきがあったのか」「指導目標に向かって努力したことや努力しようとした態度」を記録します。</p> 
	B	
	C	
	D	

図9 児童生徒の評価

指導に対する評価とは、教師自身に対する評価である。解説自立活動編では「教師自身が自分の指導の在り方を見つめ、幼児児童生徒に対する適切な指導内容・方法の改善に結び付けることが求められる」とある。自立活動の指導目標は、教師が児童生徒の実態を基にして考えるもので、教師が責任をもって計画し実施するものである。指導目標に妥当性があったのか等の視点で振り返る必要があるため、その視点を示した。

この視点は『自閉症のある子どもの自立活動の指導について考えよう！』（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）を参考にして、6つ（①活動内容 ②活動量 ③活動の流れ ④教具 ⑤活動の場の配置 ⑥指導目標の妥当性）を定め、様式には評価の欄を作成した。記入のポイントには6つの視点で振り返って、指導の改善を行えるように示した。（図10）


指導に対する評価	評価の視点	①活動内容 ④教具	②活動量 ⑤活動の場の配置	③活動の流れ ⑥指導目標の妥当性
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p>★6つの評価の視点からこの単元を振り返り、指導の改善を行います。</p> <p>「活動内容、活動量、活動の流れ、教具、活動の場の配置」が適切だったか、「目標の妥当性」は、単元の指導目標が児童生徒の実態に合っていたかについて、振り返ります。気がついた視点について振り返りを行いましょ。</p> </div>  </div>			

図10 指導に対する評価

授業例

授業例は、記入の仕方を示す役割と共に自立活動の授業づくりの要点の一つである、児童生徒が主体的に取り組める授業を示したいと考えた。自立活動の目標にある「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する」ことをめざすと、発達の遅れている面や障がいの状態を改善することに教師の意識が向きがちである。しかし、それらの点にとらわれて、これを伸ばしたり、改善したりすることのみを指導目標にすると、児童生徒は苦手なことやつらいことを繰り返し行うことになる。そのため、児童生徒が活動することに必要以上の時間を要したり、学習意欲を低下させたりして、劣等感をもたせてしまうことが考えられる。

児童生徒が、主体的に活動に取り組むことができるようにするためには、児童生徒の生活の流れやまとまりに基づく学習活動（単元：導入－計画－準備－実践－まとめの一連の活動があるもの）が考えられ、一人一人の指導目標の達成に有効な手段であると考えられる。このようなことを伝えるために、児童生徒が目的に向かう活動内容で授業例を作成した。

○モニターの声から

モニターからの意見は、以下の通りである。

表2 モニターからの意見 (Go! Go! 授業づくり! シート 自立活動用)

質問内容	意見 (○評価された点、▲課題)
単元の指導目標と手立てについて	○1枚のシートに指導目標(長期目標)と単元の指導目標があるので、いたりきたりして関連付けて考えることができた。
単元の活動内容を考えることについて	○児童の興味関心や良さに着目することができるシート欄が役立った。子どもの課題ばかりに目がいってしまうので、この欄はありがたかった。 ▲シートを使ったが、単元の指導内容を考えることが大変だった。
具体的な指導内容を設定する際の配慮事項について	○配慮事項とは何だろうと思った。活動内容が決まってから配慮事項を見た。
児童の評価、指導に対する評価について	○単元の指導目標を立てることで、評価をすることができるので、単元の指導目標をきちんと立てることは大切だと思う。 ○「指導に対する評価」では、評価の視点が示してあり良かった。②・④の視点は、新しい視点だった。自分の考えや判断がどうだったか振り返ることは、大切だと思う。

○考察

モニターから得たシートの評価から、シートの有効性と課題を以下のようにとらえた。

シートの有効性

- ・「単元の指導目標と手立てについて」「単元の活動内容を考えることについて」の意見から、授業づくりに必要な情報を精選したことで、指導目標(長期目標)と単元の指導目標等に関連付けたり、児童生徒の長所やよさ、興味・関心と配慮事項を踏まえて指導内容を考えたりできたことが分かった。自立活動の授業づくりの要点を意識しながら授業づくりができるシートであったととらえることができる。
- ・「配慮事項とは何だろうと思った。」という感想から、配慮事項を知らないという実態があることが分かり、配慮事項をシートに記載することが有効だった。
- ・「指導に対する評価」で評価の視点を示すことで、その視点にそって評価ができたようであり、有効であった。

指導に対する評価	評価の視点	①活動内容	②活動量
		④教具	⑤活動の場の配置
	① だんだんレベルアップができていき、頑張りがとれてきた。どうして頑張るのかわかりたからな。		
	② 今後は徐々に増やそう(本人の負担が大きい)		
	③ 慣れたら主体的に動く、自然と流れてきた感じ。		
	④ スーツを用意はあった。DDRも本人が楽しそうにやっていた。(内容が)		
	⑤ 今は生徒一名で2人でよし。⑥当初の目的は達成した。継続が重要。本人と一緒に考えたり、提案したりした。		

図11 モニターの評価

・「評価の②・④の視点は、新しい視点だった。自分の考えや判断をどうだったか振り返ることは、大切だと思う。」という意見から教師の指導に対する評価の重要性が伝わったと考える。また、モニターの評価(図11)を見ると、現在の指導目標を振り返り、今後の指導目標の方向性を考えて記述している。特学担任が考えた指導目標に妥当性があったのか、このように振り返って確認と修正を行うことでさらに妥当性が高まっていくと考える。

課題と改善点

活動内容を考える難しさ → 具体的な活動内容の一例と参考になる資料を示す

「単元の指導内容を考えることが大変だった」というモニターの感想があった。単元の指導目標と単元の活動内容を考える過程では、児童生徒の長所やよさ、興味・関心と配慮事項の記載によって、意識しながら活動内容を考えることができたが、活動内容のアイデアを探したり考えたりすることに苦勞しているということが分かった。具体的な活動内容を考える難しさについては、教育事務所の指導主事からも同じような意見があり、多くの特学担任が苦勞をしている状況である。また、指導目標（長期目標）を達成するための年間の指導内容を設定する段階でも同じような苦勞がある。

その難しさの背景には、学習上及び生活上の困難さを改善するための知識・技能や方法、習慣等を習得することが目標であり、児童生徒ごとに異なる目標となる自立活動の特徴がある。また、指導の形態は、自立活動の時間における指導と学習や日常生活全般の中で行う指導とがあり、具体的な指導内容によって異

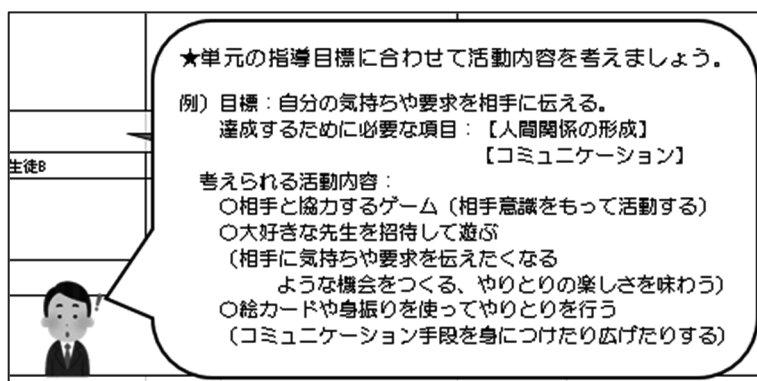


図 12 具体的な活動内容の一例

なってくる。この難しさへの対応のため、年間の指導内容や単元の主な活動内容を考える際の参考となるものを作成しようと考えたが、活動が優先され活動ありきの自立活動になることに懸念がある。

そこで、児童生徒の指導目標から具体的な指導内容を考えることを伝えつつ、どのような具体的な活動内容が考えられるか示すために記入のポイントに一例（図 12）を載せることにした。

また、解説自立活動編に掲載されている指導内容例をまとめた「自立活動の内容整理表」（当セクション作成資料）も合わせて参考にできると考える。解説自立活動編には、具体的な指導内容例について「特定の障害や障害の状態を踏まえて例示がされているが、他の障害であっても学習上又は生活上の困難が共通する場合には、指導内容例が参考にできる」と説明されている。そのため、記入のポイントに「自立活動の内容整理表」をヒントとなる資料として紹介した。自立活動の授業づくりに関係する情報を関連させて掲載することで、特学担任が児童生徒に合わせて活用できるようにした。

今後の課題として、図 12 で示したような単元の指導目標から考えられる指導内容の例をいくつか示すことができれば授業づくりの参考になるのではないかと考えた。

ウ 各教科等を合わせた指導用

○資料の概要

各教科等を合わせた指導の授業づくりにおいては「どんな活動を行ったらよいか分からない」との声や、昨年から引き継いだ活動を行ってはいるが、児童生徒にどのような力をつけるのかは曖昧なまま指導を行っており「これでいいのだろうか」と不安を感じている声を聞くことがある。また、各教科の目標や内容を、各教科等を合わせた指導の授業づくりの中でどのように位置づけていったらよいか戸惑う声も多い。

特学担任の上記の現状も踏まえ、児童生徒の興味・関心や実際の生活に沿った活動内容を考えること、合わせる教科を明確にしながら児童生徒の実態に基づいて適切に目標を定めること、という授業づくりの二つの要点を意識しながら授業づくりを行うことができるよう、本シートを作成した。構成としては、様式、記入のポイント、授業例に合わせ「各教科等を合わせた指導の活用資源例一覧」も作成した。

様式、記入のポイント

児童生徒の興味・関心や実際の生活に沿った活動内容を考えることができるよう、以下のように工夫した。まず、“①児童生徒の実態の確認”の欄でこれまでの学びや身に付けてきたことについて確認し、それを踏まえて“②活用したい資源、教材等”で児童生徒の実際の生活場面に沿った、必然性のある活動について考える流れとした。“②活用したい資源、教材等”では考える際の視点をいくつか示し、児童生徒の身近な生活や興味・関心に、様々な活動内容のヒントがあることを意識できるようにした。

また、合わせる教科を明確にしながら児童生徒の実態に基づいて適切に目標を定めることができるよう、以下のように工夫した。まず、“③単元で身に付けたい力”“④目標として取り扱う教科でめざす姿”を両方向の矢印で示すことで、自立と社会参加の視点、各教科でめざす姿の視点の両輪で授業を考えていくことができるようにした。そして、“④目標として取り扱う教科でめざす姿”については、難しさを感じる特学担任が多いことが考えられるため、記入のポイントに考える手順や一例などを示し、具体的なイメージにつながりやすいようにした。情報を活用しながら考えることができるよう、「各教科の段階表」を参考資料として表している。

また“①～④”を踏まえ“⑤手立て”を考えられるように欄を設けた。

各教科を合わせた指導は、基本的な流れがあるわけではないので、単元の組み方も授業者任せられる。そのため、“⑥単元計画”についても、考える手順を示し、経験の浅い特学担任が参考にできるようにした。

授業改善につながるようにするために、“⑦評価”について、教科ごとに資質・能力の三つの観点を意識して書くことができるよう、記入のポイントに示した。



①児童・生徒の実態の確認			
各教科等の指導について (特支CS知的の教科)		★まずは実態把握。個別の指導計画、年間指導計画で確認を。 ★単元を構想する上で必要なことは、抜粋して記入してもよいです。	
生活面について			
これまで各教科等を合わせた指導で 学んできたこと			
②活用したい資源、教材等			
<input type="checkbox"/> 校内 (学校行事等)	<input type="checkbox"/> 季節	<input type="checkbox"/> 興味・関心	<input type="checkbox"/> 地域
★「児童生徒の実際の生活場面に沿った」「必然性のある」活動ができる よいですね。いろいろな資源や教材が活用できますよ。 『各教科等を合わせた指導の活用資源例一覧』も参考に！			
子どもたちがいきいきと取り組めそうな ことがいいなあ…身近なところにいろ いろ活動のヒントがありそうだな。			
③単元で身に付けたい力<自立と社会参加の視点から>			単元名
★単元全体を通して、めざす児童生徒の姿について簡潔に記述します。 ★子どもたちの実態から、「自立と社会参加」に向けてどんな姿をめざ したいか、という視点で考えてみましょう。			★子どもたちに分かりやす く、魅力的な名前がいて すね。
④目標として取り扱う教科でめざす姿			★達成するのは、各教科の目標です。 教科として育てたい力と「自立と社会参加」の 視点の両輪で考えることが大切です。
観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
教科名	★この単元で特に目標としたい教科だけ取りあげましょう。(3つくらいまで) →知的障がい特別支援学校の各教科のみです！		
	★手順 ① ホームページ資料「各教科の段階表」や学習指導要領の内容から、この単元で取り 扱うものを選ぶ。 ② ①を「この単元でめざす児童生徒の姿」として表す。(集団としてでも、個に 焦点をあてても)		
★「各教科の段階表」 や学習指導要領から、 該当する指導内容の 項目を記入します。	 <p>お客さんとのやり取りの言葉に意識を向けて取り組んでほしいなあ… 「国語」で育てたい力として、3つの観点で表そう！ 教科の視点で子どもを見ることで、子どもへの支援や言葉がけも変わ ってくるなあ… 深い学びの姿がイメージできそう！</p> <p>お客さんに分かりやすいよう、「いらっしゃいませ」 「ありがとうございました」がはっきりと言えたね！ (国語 A聞くこと・話すこと：エ・オ)</p>		

図 13 記入のポイント

授業例

知的障がい特別支援学級の実践のイメージにつながりやすいよう、小学校4名(5年生2名、3年生2名)学級の生活単元学習の例を示した。活動内容も、実践で行われることの多い「お店屋さん」を題材とした。この授業例は、当セッションホームページ資料である生活単元学習サンプル指導案と同じ活動内容とし、指導案作成を行う際にも、参考にしやすいようにした。

⑥単元計画					
時間	学習活動 期待する児童生徒の姿 手立て	活動の記録	評価の計画		
			知	思	主
2時間	○わくわくまつりの計画を立てる ・内容や招待する人、役割を決める。 ・1学期にしたこと（お客さんの感想とか、振り返りで話し合ったこととか）を思い出しながら考えてほしい。 ビデオ 写真			生活	
2時間	○お店の準備をする①(ポインティング:A,B とんとんずもろ:C,D) ・お店で必要ものを考える ・言葉や台詞を考える(せりふカード 必要な人だけ) 「困ったな〜」「どうしよう…」から ↓	A: お店の準備の役割① → 自分からBに声をかける。	生活 国語		
4時間	○お客さんが楽しめる工夫がし ・公民館祭りで、自分から発見してほしい！ A: お店の人に自分から声をかけてインタビューも。 B: 聞きたいこと事前にまとめておいてメモを見て。 C: 録画ポイント…時々声をきいて D: 視点がそれそうなどときには「はっけんシート」を見る。 1班に1つipad? 9:30学校発→10:00～11:00公民館→11:30学校着 学校についてから、グループごとに発見したことのまとめ * 水筒、生活科ボード、「はっけんシート」	D: 「はっけんシート」にお店の人の言っていたことやメモ。	生活 国語		
4時間	○お店の準備をする② ・発見したことを自分たちのお店に取り入れてほしい 「はっけんシート」とまつりの動画	A: 1サビン → ポインティングのピンに！ B: 「オレズ、7明けいから対な見えてくれるやも。」 C: 公民館祭りの動画見ながらうらやまが〜。「祭りのほいから、アクリルペイント、おもしろい絵、いっしょい入りに。	園工 園工 園工		

図 14 授業例

各教科等を合わせた指導の活用資源例一覧

児童生徒の興味・関心や実際の生活に沿った活動内容を考える際の参考となるよう、各教科等を合わせた指導で活用できる資源についての一覧を作成した。ジャンルとして“校内（学校行事等）”“季節”“興味・関心”“地域”“その他”と分け、様々な視点から活用できる資源があることを示した。また、シート“②活用したい資源、教材等”の項目と関連させることで、シート作成の際に情報として活用できるようにした。

○モニターの声から

モニターからの意見は以下のとおりである。

各教科等を合わせた指導の活用資源例 一覧	
視点	資源・教材例
校内 校内の行事に向けて…日頃かわりのある先生方と共に…	・学校行事（運動会・体育祭、学習発表会、音楽会など） ・交流学級との学習（学級活動、教科学習…） ・お世話になっている先生方を招いて（お楽しみ会、ランチ会…） ・学校探検 ・委員会活動 ・部活動 ・修学旅行に向けて ・宿泊研修 ・職場体験
季節 季節の中には、合わせた指導のヒントがいっぱい。 四季の味わいを楽しみながら、いろいろな学びにつなげることができますよ。	春 ・お花見 ・こいのぼり ・ひなまつり ・調理（桜もち、よもぎもち、よもぎだんご、かしわもち） ・畑づくり ・田植え ・春を探そう 夏 ・七夕 ・水遊び ・どろんこ遊び ・フール ・そうめん流し ・冷たいデザートづくり(かき氷、ゼリー、アイス、プリン…) ・夏野菜を使った調理活動(夏野菜カレー、バーベキュー…) ・夏祭り ・夏の虫を探そう 秋 ・お月見 ・落ち葉あそび(散歩で集める、創作活動) ・野菜の収穫 ・やきいも ・収穫した野菜を使った調理活動(スイートポテト、サツマイモプリン…) ・秋祭り ・くりひろい(お菓子作りなど) 冬 ・雪遊び ・年賀状づくり ・クリスマス ・お正月(お正月遊びなど) ・節分(豆まき、鬼のお面づくりなど) ・書初め
興味・関心 子どもたちはどんなことが好きですか？ ここに挙げたのはほんの一例です。興味・関心の活動で、子どもたち	・ゲーム(パソコンゲーム、ボードゲーム、すごろく、遊びコーナーづくり ・段ボールランド) ・調理活動(クッキー、ケーキ、パン、うどん、ピザ…) ・おみせやさん(ゆうびんやさん、クリーニング屋さん、アクセサリーやさん…調理活動と組み合わせても) ・スポーツ(すもう大会、野球、サッカー、風船バレー…)

図 15 各教科等を合わせた指導の活用資源例一覧

表3 モニターからの意見（Go! Go! 授業づくり! シート 各教科等を合わせた指導用）

質問内容	意見（○評価された点、▲課題、・その他）
各教科でめざす姿の整理について	○今まで教科という意識をもっていなかったもので、それを意識できてよかった。 ○実際にシートを書くことで「国語のこの部分をねらわないといけない」と意識するきっかけとなった。 ○今まではその子に合わせて何をやってもいい、と言われていたけどよりどころがなく、「これでいいのかな?」と思っていたことが解消された。 ○観点を含めて書くと、ねらいやめざす姿がはっきりする。
児童生徒の実態について	○シートにかくことで授業を実態にあわせてつくろうとする。 ・実態はわざわざシートには書かない。でも頭の中にあるのでそれを基に考えることはできた。
記録欄について	▲自分にはここには記録しない。いつも使っているところ以外のところに記録すると分からなくなるから。記録としては使わず、計画として使う
使いにくかった点について	▲自分の力をつけるために使うシート。今回は訪問指導があるのでそれに向けて作成したが、そうでないと授業のたびに、は書かないと思う。単元づくりはいつも大まかになるのできちんと計画した方がよいと思うが。ただ、指導案を書く際のベースとしての使い方はよいと思う。
活用資源例一覧について	○活用資源例一覧は、今回は使っていないが、題材が決まっていなときには参考にしよう。 ○活用資源例一覧はとても参考になった。ぱっと見て使える。

○考察

モニターから得たシートの評価から、シートの有効性と課題を以下のように捉えた。

シートの有効性

・いずれのモニターも、シートを作成する中で特別支援学校学習指導要領や「各教科の段階表」を読み、児童生徒の実態から教科の目標を確認することができた、と述べていた。つまり、シートを作成することで「各教科のどの目標を達成するのか」を明確にする意識につながったと捉えることができる。また、そのことが「よりどころ」と感じられたという意見もあった。シートを作成しながら各教科等を合わせた指導を行う意味を確認することで、特学担任が安心感をもって授業づくりを行うことにもつながる場合もあると捉えられる。

・活用資源例一覧については「とても参考になった」「題材が決まっていなときには参考にしよう」との意見があった。各教科等を合わせた指導の年間指導計画を作成するとき、または年度当初予定していた以外の単元を考える際に、活用できると考える。また、A4の一覧になっていることで「ぱっと見て」手軽に使うことができると感じられた、ということも活用のしやすさとして捉えることができる。

課題と改善点

シートの活用の仕方を整理する

シートの活用について「自分の力をつけるために」と捉えた意見があった。誰もがよい授業をしたいと願っており、このシートがその手助けになるとよいと考えている。どのような場で、どのような機会に活用するのか、シートの活用の仕方についてあらためて整理し、示していく必要がある。

記録欄について

記録欄についてモニターから資料を記録に使用しないという声があった。ただ、モニターは自分の記録しやすい方法で授業の記録をとっていることや、特学担任にはそれぞれやりやすい方法で記録をすればよいと考えているので、資料の記録欄についてはこのままの形式とする。今後、より多くの資料の活用状況を把握することで、記録欄のあり方について検討していきたい。

以上「Go!Go!授業づくり!シート」について、作成の工夫や成果と課題について述べた。モニターからは、「児童の興味関心や良さに着目することができるシート欄が役立った」「(授業に対する考えの整理や明確化について)意識して授業をすることができた」といった声があった。それらの声から、本シートは、児童生徒の実態に合った授業づくりのための要点が踏まえられ、次の授業に活かすことができる工夫等が行われているもので、特学担任の授業力を向上させることができるシートであることが分かった。機会をとらえて活用することで、特学担任が児童生徒の実態に合った授業づくりの要点を学び、学んだことが身に付いていき、シートを使用しなくてもそれが日々の授業づくりに活かされることを期待している。

② ほっぷすてっぷ～各教科の段階表～

○資料の概要

昨年度、知的障がい者である児童生徒に対する特別支援学校の各教科の目標と内容に則した授業づくりを行う際に活用できるものとして、知的障がいのある児童生徒の各教科の目標と指導内容の一覧表を作成した。しかし、昨年度行った特学担任の実態把握から分かった「目標設定の段階で、担任している児童生徒に対して、本当にこの目標や内容でいいのかと悩むことが多い」や「とにかく“具体”が知りたい」というニーズへの対応は十分ではなかった。

そこで、今年度は、それを基に、さらに特学担任が活用したいと思えるようなものをめざして工夫を加えた。工夫した点は、以下の2点である。

小学部	
3段階	3段階
ア 身の回りのものの形	☆本の解説から抜粋した各題材の指導内容
(ア) 知識及び技能 ㉞ ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えること。 ㉟ 具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 ㊱ 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を用いて、ものの位置を表すこと。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ㉞ 身の回りにあるものから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 ㉟ 身の回りにあるものの形を図形として捉えること。 ㊱ 身の回りにあるものの形の観察などをして、ものの形を認識したり、形の特徴を捉えたりすること。	【かたちあそび】(P50) ○立体図形でものづくり ・立体図形の特徴や機能を知る 立ててみる かどのとがり 上から見たり横から見たりしたときの形 ○面の形で写し絵 ・立体図形の一部に平面図形(丸、三角、四角)がある 【いろいろなかたち】 ○しかくをつくる (マグネットバーで)(P51) ・端と端をくっつけて ・囲まれた形 ・「真四角」「長四角」「へり」「角」 ・必要な本数の確認 (紙を使って)(P52) ・長四角から真四角を作る ・「真四角」「長四角」「へり」「角」 ・「へり」を意識して ○身の回りの四角を分類する。(P52) ・「真四角」「長四角」 ○さんかくをつくる (P53) (マグネットバーで) ・端と端をくっつけて ・「角」を意識して

図 16 算数・数学の段階表

一つ目は、算数・数学については、学習指導要領の内容に合わせて、具体を小学部及び中学部用教科書（以下、「☆本」）から示すこととした（図16）。それらを段階ごとに比較しながら確認することで、学習指導要領に示された指導内容について具体的に理解し、児童生徒の目標を設定することができる。よって、この資料が指導目標の設定の妥当性につながると考えた。そこで、具体としては☆本の解説から抜粋した各題材の指導内容（以下、「☆本解説の指導内容」）を示し、内容の示し方はモニターの意見も踏まえて検討していくこととした。また、☆本は、学習指導要領に示されている指導内容を一通り学習することができるような構成となっている。知的障がいのある児童生徒の各教科の指導内容の一覧表と併せて、☆本の内容がより具体になった☆本解説の指導内容を見ることで、学び残しなく指導することができると思った。ただ、☆本で掲載している題材は一つの例に過ぎない。また、知的障がいのある児童生徒の場合、学習の定着までに、繰り返しの学習が必要になることがあり、その題材がねらいとしていることや、児童生徒が生かしたり働かせたりする教科の見方・考え方を踏まえ、さらに、児童生徒の興味・関心を考慮して、新たに題材を用意することも必要となる。以上のことから、作成当初は、シンプルに伝えることをめざして、☆本解説の指導内容のみを表記する方向で作成していたが、最終的には、☆本解説の指導内容に合わせて活動のポイントなども表記することとした。それにより、知的障がいのある児童生徒に行う授業づくりにおいて重要な「実体験を取り入れる」「スモールステップで」といった内容を意識しながら児童生徒に合わせた授業展開を考えていくことができると考えた。☆本の指導内容から授業のイメージがもちやすくなることから、教え込むだけでなく、☆本を使ってよりよい授業をすることを

願い、活用の仕方例に示すこととした。

二つ目は、活用の仕方例の作成である（図17）。この段階表を年度始めに確認したり、年度末に記録として残して次年度への引き継ぎに活用したりすることで、年度を越えて見通しをもちながら指導することができ、目標や内容設定に対する悩みに対応

子どもの授業中の姿や評価などを記録することができます！

- ・【元版】と【記録用】があります。
【元版】・・・そのまま保存用として残し、印刷して使っていただくことができます。
【記録用】・・・コメントを追加記入したり、枠を加工するなどしてご活用ください。

このような使い方が考えられます。

ア. 学習内容の定着の程度の確認として（今年度の指導計画の参考に）

小学部 3段階	1段階	中学部 2段階
ア 身の回りのものの形 (7) 知識及び技能 ① ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えること。 ② 具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 ③ 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉の大きさ	ア 図形 (7) 知識及び技能 ① 意味について知ること。 ② 三角形や四角形について知ること。 ③ 正方形、長方形及び直角三角形について知ること。 ④ 正方形や長方形で捉えられる種の形をしたものに	ア 図形 (7) 知識及び技能 ① 二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図を通してそれらの関係に着目すること。 ② 二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスなどを用いて作図すること。
イ 角の大きさ (7) 知識及び技能 ① 傾斜をつくと角がでることを理解すること。 (4) 思考力、判断力、表現力等 ① 傾斜が変化したときの斜面と垂直の作り出す関係に着目し、大きい・小さいと表現すること。	イ 図形 学習内容が定着したセルを青色しよう。	イ 図形 定規とコンパスを使って、二等辺三角形や正三角形を作図する力は、身についたなあ。力がついたら項目には、赤線を引こう。

○セル全体を着色することで、今現在の生徒児童の段階を確認することもできます。
○吹き出しにあるように、セル中の文章に、意味づけした下線を引くこともできます。
○学習内容が十分定着していない場合は復習したり、次の単元の授業の構想にも生かすことができます。

図17 活用の仕方例

できると考えている。また、引き継ぎ資料として学習指導要領や前年度までの個別の指導計画などをそれぞれで用意しなくても、この段階表だけでその児童生徒の姿を確認することができ、手間を省くことができる。さらに、この段階表に毎年児童生徒の様子を加えていくことで、学習指導要領と児童生徒の様子を関連させて記録することができる。そういったシートの有効性や作成者の意図を分かりやすく伝えるために段階表の特長を示した活用の仕方例を作成した。項目には「教科の内容を系統性を踏まえて把握できる」「子どもの授業中の姿や評価などを記録することができる」「☆本を関連させて指導内容が確認できる」（算数・数学のみ）の三つについて簡潔に伝え、やってみようと思えるものをめざした。活用にあたっては、いくつか例を挙げるとともに、編集可能なデータとして提示することで、決まったやり方ということではなく、授業者の意図に応じて変えながら活用できるように考えた。

○モニターの声から

モニターからの意見は以下のとおりである。（☆本解説の指導内容入りのものは年度をかけて作成する予定のため、この時点での活用はしていない）

表4 モニターからの意見（ほっぷすてっぷ～各教科の段階表～）

質問内容	意見（○評価された点、▲課題、△要望）
段階表は分かりやすかったか	○使いやすかった。 ○データだったのはよかった。こちらで自分の都合のいいように加工して利用できる。文科省のサイトなどは資料がPDFだったりするので、Excelのデータは良い。 ▲段階表は主に「生活」を使った。活用例も「生活」に合わせたものがほしかった。 ▲ページ数は多くなるが、指導内容と記録したことを一度に見られるので、紙媒体の方がよかった。 ▲パソコンでは見にくいので手書きがいいかなと思った。
授業づくりをする上で参考になるものだったか	○このぐらいでいいんだ、この子はこの段階なんだ、という目安になった。算数・数学はよく見ていた。 ○「これができたら次何しようか？」「この段階では何ができている必要があるのか？」など、子どもの指導をする上で指針となるものだった。
子どもの実態を把握することに有効な資料だったか	○子どものどこを見たらいいのかわからなかったので参考になった。
改善すべき点	▲紙にした方が使いやすいかと思った。しかし、紙にすると、資料の量が多くなる。
その他	○段階表をパソコンに入れて、メモ機能でチェックした。 ○セルに色をつけて整理した。 ・グレー・・・できている（みなくてもいい） ・黄色・・・達成している ・無色・・・まだ（コメントを入れている） ▲各段階の下のところにもう一つ欄を設けるかして、手書きで記入すればよかった。 ▲記録することは大事だが、できなかった。（忙しさ等） △☆本の具体を入れるならぜひ活用したいので早く手元にほしい。 △今回は使わなかったが、☆本の内容が入れば使う。

○考察

モニターから得たシートの評価から、シートの有効性と課題を以下のようにとらえた。

シートの有効性

・段階表は児童生徒の実態が今どの段階にあるのか把握するとともに、身につけるべき力を確認することができ、有効だったことが窺えた。また、データで手元にあるので、児童生徒の達成状況を色分けして記入するなど、自分が使いやすいように加工できるのがよいという感想もあり、特学担任自らが、自分自身や児童生徒に合わせて使い方を工夫していくことができる資料だということも確認することができた。

・反面で、あまり使用しなかったという声があった。この段階では、各教科の目標と内容だけの一覧表だったので、目標などは年度当初に設定していることから必要感がなかったと考えられる。評価についても年度末に記入することも多いと考えられる。しかし、段階表の使い方を説明すると、使ってみたいという声があったので、ニーズはあるということが分かった。担任する児童生徒の段階では何をおさえるのか、どんな授業展開にするといいのか、実際の児童生徒に合わせてどうなるのか、といったことを考える際の手助けとなることを期待する声があった。

課題と改善点

授業づくりの参考に活用したい

→流れに見通しをもちながら授業づくりができるよう具体的内容の工夫

具体を授業づくりに活かしたいという声が多いことから、特別支援学級で活用しやすい小学部3段階から中学部2段階までのすべての領域について具体を示していくこととした。そうすることによって、年度始めや年度末の目標の設定や評価のときだけではなく、授業（単元）前に確認する機会も多くなると考えられる。授業（単元）前に単元の指導内容や指導のポイントを把握し、児童生徒に合わせて具体的に設定し、流れに見通しをもちながら授業に向かうことにつながると考える。具体や作成する教科について検討していく必要がある。

5 成果と課題

2年次の取組を終えて、特学担任の授業づくりを支える資料を完成させることができたことは成果であった。また、特学担任が今回作成した資料を有効活用しながら、より授業づくりの力を高めていくことができるようにするためには、資料と様々な情報のつながりを示し、各関係機関との連携の中で様々な場で活用していくことが必要であることも分かった。成果と課題について、以下詳しく述べる。

(1) 成果

- 各教科、自立活動、各教科等を合わせた指導の授業づくりにおいて大事にしたい要点の整理

今回の資料作成に向けて、セクション内で各教科、自立活動、各教科等を合わせた指導それぞれの授業づくりにおける要点をまとめることができた。この要点は、資料に活かすことができただけでなく、今後研修等で特学担任と授業づくりについて共に考えていく際にも重要な視点になると考える。どの授業でも共通するのは、実態把握を丁寧に行うことから指導目標や指導内容、活動内容、単元計画や評価を「つながり」として考えて

いくことである。記録した児童生徒の姿や評価は、授業改善をともないながら次の授業へとつながっていく。また、それを来年度の授業づくりへつなげていくことも大事である。作成した授業づくりシートや各教科の段階表がこのつながりの柱となるものとして活用されることを願っている。

○特学担任の授業づくりを支えるうえで重要な視点の整理

資料作成の過程でモニターや各教育事務所指導主事等からたくさんの意見をいただき、それをもとに検討を続ける中で、新たに特学担任の授業づくりを支えるうえで重要な視点に気づき、それを整理することができた。これらもまた「つながり」という共通のキーワードで表すことができる。以下、それらについて述べる。

様々な情報の「つながり」を示すことで活用へつなげる

本研修では、「特学担任が自ら情報を活用し、児童生徒の実態に合わせた授業づくりをすることができる」ことをめざす姿とした。児童生徒理解に向けた様々な情報を活用することで、手立てや活動の幅が広がる。また、知的障がい特別支援学校の各教科の指導目標や内容を確認することで、系統性や根拠を伴った指導を行うことができる。個別の指導計画や自立活動シートとつなげて考えることで、長期目標の達成に向けた単元計画ができる。授業づくりシートを柱としながら様々な資料を示すことが、児童生徒の実態に合った情報を選択しながら授業づくりを考えることにつながることを、モニターの声から確認することができた。これまで当セクションホームページにあった様々な資料が授業づくりにどのように役立つのか考え、授業づくりシート等とのつながりを整理できたことも成果であった。

各関係機関との「つながり」をつくり、様々な場で同じ視点で支える

今回作成した資料は、当セクションホームページに掲載する予定だが、それだけではたくさんの特学担任が資料を活用することや、特学担任へ授業づくりの要点を伝えることにはつながりにくい。今回各教育事務所指導主事からいただいた「資料の研修での活用」「県内の特別支援教育指導主事内での資料の共通理解」等の意見は、ホームページや教育センター内だけに限らず、訪問指導等様々な場での資料の活用の広がりにつながっていくと考える。私たちが授業づくりで何を大事にしたいと考えているのか発信し、各関係機関とともに考え「つながり」の中で同じ視点で様々な場で特学担任を支えていくことが、本研究の目的の達成のためにも大事であるとあらためて確認することができた。

(2) 課題

○具体的な資料の活用方法や場の検討

成果で表したように、今後関係機関とつながりながら、研修や教育センター外の様々な場で、作成した資料を活用できるようにすることが大事であると考え。どのような研修で資料を取り入れるのか、どのような方法で関係機関に資料の情報提供をし、活用を依頼していくのか等について、来年度に向けて具体的に検討し、実施していきたい。

○現場のニーズに添った資料の改善

今回、モニターから得た意見は、現場の声として非常に貴重な意見だった。引き続き、研修等でのシートの記述の様子や受講者の声などを参考にしながら、より要点に迫るこ

とができ、活用しやすいシートに向けて改善を行っていく必要がある。

今後は、モニターからのニーズも高かったことから、各教科の段階表の他教科の作成についても検討していきたい。特に、算数・数学で学習指導要領の指導内容に合わせて☆本解説の指導内容を記載したことは、児童生徒の実態把握や指導目標や内容の設定の際の参考になると感じたモニターも多く、有効な資料であると考えられる。各教科の特徴を考慮しながら、どの教科で作成ができるのか、どのような表し方がよいのか、今後検討していく必要がある。

6 おわりに

今年度は、特学担任が特別支援学級の魅力を感じながら、授業の拡がりに充実感を覚え、児童生徒の実態を踏まえながら授業づくりができる「Go!Go!授業づくり!シート」「ほっぷすてっぷ～各教科の段階表～」の作成・改善を行ってきた。特学担任がこのシートや資料を活用することで、授業づくりの要点や分からないことを確認して授業づくりの発想を膨らませてほしい。そして、さらに特学担任の意見を反映させながら、より使いやすいものにしていきたい。

そのために、特学担任が簡単に必要なシートと資料を見つけてダウンロードができるようにしたり、編集ができるデータ形式で掲載したりするなど、ホームページでの情報発信の仕方を工夫したい。

この共同研究を通して、特学担任の日々の努力に思いをはせながら、資料を読み込んだり、どうしたら分かりやすく伝わるだろうかと考えたりしてきた。そのプロセスが、一人一人のこれまでの教育実践を振り返り専門性を高めることにつながった。

最後に、本研究を進めるにあたり、ご協力をいただいた県内の小・中学校の特学担任、特別支援教育課、各教育事務所指導主事のみなさまに感謝の意を表したい。

なお、この研究は教育相談スタッフ特別支援教育セクション共同研究として行い、稲場宏満、景山佳奈子、出来山大介、土井史、吉田卓矢が執筆にあたった。

【引用文献】

- ・文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』平成30年3月

【参考文献】

- ・文部科学省『さんすう☆さんすう☆☆さんすう☆☆☆教科書解説』令和2年
- ・文部科学省『数学☆☆☆☆数学☆☆☆☆教科書解説』令和2年
- ・文部科学省『さんすう☆☆☆ 特別支援学校 小学部知的障害者用』
- ・文部科学省『数学☆☆☆☆ 特別支援学校 中学部知的障害者用』
- ・文部科学省『数学☆☆☆☆☆ 特別支援学校 中学部知的障害者用』
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「自閉症のある子どもの自立活動の指導について考えよう！」令和2年5月
- ・文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』平成30年3月
- ・文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）』平成30年